

早稲田大学大学院政治学研究科
科学技術ジャーナリスト
養成プログラム 修士課程

MAJESTy
Master of Arts Program for Journalist
Education in Science and Technology, WASEDA UNIVERSITY

文部科学省 科学技術振興調整費 新興分野人材育成

<http://www.waseda-majesty.jp>

科学技術ジャーナリストに必要とされる5つの要素

科学技術の理解

An Understanding of Scientific Knowledge & Philosophies

実践的スキル

Professional Communication Skills

ジャーナリズムとメディアの理解

Insight into the Role of Journalism & the Media

現場主義

Field-Based Experience

建設的批判精神

Critical Thinking Competencies

TV電話や宇宙ステーション建設からクローン技術にいたるまで、20世紀にイメージされていた未来の技術は現実のものとなりました。しかし、著しい発展を遂げた科学技術だからこそ、社会で問われる問題も広く、そして深い。21世紀のいま求められているのは、科学技術情報へのリテラシー。——私たちは、科学技術を冷静に見つめるスペシャリストを養成します。そして、より多くの人々が科学技術リテラシーをもった、新しい社会をめざします。

科学技術を語る責任が私たちにはきつと、ある。



科学技術ジャーナリストを目指して

MAJESTyでは、つぎの5つの能力を養成します。



科学技術の理解 An Understanding of Scientific Knowledge & Philosophies

科学技術ジャーナリストには、科学や技術の専門知識はもちろんのこと、それに関連する哲学・歴史・社会論を踏まえた体系的な知が求められています。科学技術とその背景を幅広く学習し、その問題点を論じられるような総体的な視点を育成します。

●主な授業区分：基礎部門、イシュー領域、自然科学基礎知識



ジャーナリズムとメディアの理解 Insight into the Role of Journalism & the Media

ジャーナリズムの意義、そしてメディアの役割が改めて問い直されている現代、コミュニケーション手段の多様化は世界の構造そのものを大きく変革しようとしています。ジャーナリズムの理論的な学習を通じ、過去を踏まえ未来を見通す“眼”を養成します。

●主な授業区分：ジャーナリズム領域、イシュー領域



建設的批判精神 Critical Thinking Competencies

ジャーナリストには批判精神が求められています。しかし単なる批判に終わるのではなく、社会的公正の視点から問題を提起することで、より良い社会を実現していく原動力となることが大切です。授業、そして仲間との議論を通じ、多角的な問題意識の体得を目指します。

●主な授業区分：各種授業におけるディスカッション、ディベートやセミナー等



現場主義 Field-Based Experience

インターネットの発達によって、いながらにして多くの情報が得られるようになった現在。だからこそ、科学技術と報道の現場で、じかに物事を見聞きし、人と対話して得られる情報の重要性が増していると言えます。各種のフィールド活動を通じ、現場に根ざした視点を養成します。

●主な授業区分：実践部門



実践的スキル Professional Communication Skills

ジャーナリストが情報を収集・編集・発信するには、取材力、分析力に表現力といった実践的なコミュニケーション・スキルを身につけていることが必要です。インタビュー、リサーチ、ライティングなどの授業を通じ、これらの基礎的能力を育成します。

●主な授業区分：知識情報・リテラシー科目、実践部門

Total Concept



未来志向 An Orientation Toward the Future

授業を通じて以上の5つの要素を体得し、さらに仲間と切磋琢磨していく毎日のなかで、ひとりひとりの学生が先見性を持った科学技術ジャーナリストとして、活躍していくための“姿勢”を獲得できる。

—私たちのプログラムは、そんな場の提供を目指しています。

プログラムで学べること

科学技術ジャーナリストを目指すための、豊富なカリキュラムを提供します。

ジャーナリズム領域	ジャーナリズムとメディアの理解、建設的批判精神
方法論／知識情報・リテラシー科目	実践的スキル
基礎部門／自然科学基礎知識	科学技術の理解、ジャーナリズムとメディアの理解、建設的批判精神
イシュー領域	科学技術の理解、建設的批判精神
実践部門	実践的スキル、体験主義

区分		科目名称	
論文指導		科学技術論演習	
		ジャーナリズム論演習	
学 科 目	政治学研究科共通科目	ジャーナリズム領域	マス・コミュニケーション理論 メディア論 メディア史 広報論 情報法 知的財産権法 マスコミ産業論 ジャーナリズム論 映像ジャーナリズム論
		方法論	政治学研究方法（経験） 政治学研究方法（規範） 政治学研究方法（数理分析） 方法論セミナー（経験） 方法論セミナー（規範） 方法論セミナー（数理分析）
		知識情報・リテラシー科目	英語ライティング（アカデミック） 英語プレゼンテーション（アカデミック） 英語ライティング入門（ジャーナリズム） 英語ライティング実習（ジャーナリズム） 情報発信実習 論文作成入門
	科学技術ジャーナリスト養成プログラム科目群	基礎部門	科学技術政策 科学方法論 科学史 民間企業における研究開発 遺伝子技術概論 医療と社会
		イシュー領域	生命倫理 情報技術と情報産業 エネルギーと環境 リスク管理 開発と健康ジェンダー ネットワーク社会の実相
実践部門		科学コミュニケーション実習1 科学コミュニケーション実習2 科学コミュニケーション実習3 科学コミュニケーション実習4 メディア制作実習1 メディア制作実習2 インターンシップ	
自然科学基礎知識		自然科学概論1（物理学基礎） 自然科学概論2（生物学研究方法論） 自然科学概論3（地球環境学入門）	



科学技術ジャーナリスト養成プログラム = MAJESTy

私たちは、科学技術ジャーナリスト養成プログラムに、MAJESTy (Master of Arts Program for Journalist Education in Science and Technology) という愛称をつけました。これは、正規の修士課程プログラム (MA) であることを示すとともに、一般に科学技術コミュニケーションと呼ばれる領域の中でも、特にジャーナリストを育てるプログラム (JE) であることを強調するためです。

MAJESTyとは本来、「王者の威厳/堂々たる風格/尊厳」といった意味を持つ言葉ですが、本プログラムを通じて、科学技術に対する畏怖の念を持ちつつ、確かな目で未来を見つめることのできる、堂々たるジャーナリストを育てていきたい、という願いを表わしています。

MAJESTyに参加された方の早稲田大学大学院における所属、獲得できる学位などは次の通りです。

所属：大学院政治学研究科 / 専攻：政治学専攻 / 取得できる学位：修士 (政治学) / 標準修了年限：2年間



お問合せ先

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

早稲田大学大学院政治学研究科(3号館1F)

Tel. 03-3208-8534 Fax. 03-3204-8957

E-mail: gspolit-web-master@list.waseda.jp

政治学研究科長あいさつ

佐藤正志 Seishi SATO 早稲田大学政治経済学術院 教授



「科学技術ジャーナリスト養成プログラム」は、早稲田大学大学院政治学研究科の新たな挑戦です。

第一に、これは新しいコンセプトに基づく専門ジャーナリスト養成への挑戦です。政治学研究科は、これまで多くの優れたジャーナリストを輩出してきました。本プログラムがその伝統と実績に立つものであることは言うまでもありません。しかし同時に、このプログラムは国際的に見ても最も先進的な試みとなるよう、設置にあたっては徹底した海外リサーチを行い、いま真に求められている専門ジャーナリストとは何かを考えることから始めました。そのコンセプトに基づき、私たちは、プロフェッショナルなジャーナリストとして、倫理、知識、技能において真に実践的な人材の育成を目指すとともに、科学技術の学問的知識の世界と一般社会との間の相互関係を作り上げる公共的コミュニケーションの担い手たるジャーナリストとして、専門性においても卓越した人材の育成を目指します。

第二に、本プログラムはこれまでになかった本当の意味での学際的な教育プログラムへの挑戦です。これが文部科学省科学技術振興調整費による新興分野人材育成プログラムの一つとして実施されるというまさにそのことが、科学技術を専門とするジャーナリストが、現代社会において多く求められているにもかかわらず、現実にはその社会的ニーズを満たすにはきわめて少ないことを物語っています。そうした現状は、ジャーナリスト養成が真に学際的な事業であるという困難さからもたらされてきました。ジャーナリズムという、社会科学・人文科学系のなかでも複合・応用的な学問分野と、自然科学・技術に関する研究を学際的にしっかりと結びつけるプロジェクトは、まさしく「マスター・サイエンス」としての政治学を探究する政治学研究科だからこそ実現できました。私たちは、現代社会と科学技術という現代の最も重要な問題を、最先端の接点で捉えることができる鋭敏なジャーナリストの養成を目指します。

プログラム・マネージャーあいさつ

谷川建司 Takeshi TANIKAWA 早稲田大学大学院政治学研究科 客員准教授、映画ジャーナリスト

担当授業：メディア制作実習2、映像ジャーナリズム論、マスコミ産業論、インターンシップ、演習（論文指導）担当



©髪化粧2005年11月号掲載/有髪の文化舎

人生にとって一番大切なものは何か？ それは人との繋がりと本との出会いではないかと思います。僕自身が高校時代の恩師に贈られた言葉で、今でも肝に銘じて実践していることに「本は出遭ったその時に買う」ということがあります。たとえその時点では忙しくて読む時間がなさそうでも、後から本当にその本が必要になったときに手に入るとは限らないもの。金欠の学生なら一食抜いてでも本を買うべし（これは山本武利先生の言葉の受け売り）。

「好きこそものの上手なれ」という言葉がありますが、やはり自分が一番興味を持てることこそ、とことんまで深めていけるものだと思います。一度だけの人生、本当にやりたいことをやらずして他に何をやる？

学生のひとこと

大石かおり

早稲田大学MAJESTy 修士2年

私は今、夢中になって勉強しています。ライティングの基礎、情報発信者が身につけるべき法知識、マスコミの歴史や理論、科学史、生命科学の最新の研究成果、科学技術政策…。どの授業もとても興味深いです。

入学前の私は、「責任を持って効果的な情報発信をする自信がない」と発信をためらっていました。しかし、今の私はあの頃から大きく変わりました。入学前の不安が一つまた一つと解消され新たな課題を発見していく、自己革進を実感しています。

このプログラムで何を学べるかは、自分次第でいくらかでも発展していきます。大学院の外の世界へと導いてくださる先生方の存在も大きいです。インターンシップ、雑誌やウェブサイトへの記事執筆、イベントの企画など、実社会での経験を通じて学ぶこともできるようご指導いただいています。

今後は、私が今もっとも注目している広報について、勉強・研究していきたいと思っています。

高橋直純

早稲田大学MAJESTy 修士2年

夏休みにインターンとして、ダム建設に伴って住まいを移転する方々にお話を聞く機会に恵まれました。取材の進め方、ダムそのものの評価について、成果を公表する際に住民の方々の声をどんなかたちで出すか。計1カ月にわたる現地取材が終わったあとも、一つのアウトプットを出すまでに半年近く議論を続けています。教員や学生同士で行うこういった議論が、私にとってとても勉強になっています。

文系と理系、学部出身と社会人、といった様々なバックグラウンドの人たちとかわす議論はとても刺激的です。MAJESTyは始まったばかりでまだまだ手探り状態ですが、教員、学生みんなでより良いプログラムになるよう議論し、試行錯誤をしています。そういった試行錯誤こそが、一人一人の「科学技術ジャーナリズム」を強くしていくのだと思います。

教員紹介 演習(論文指導)担当

小林宏一 Koichi KOBAYASI

早稲田大学大学院政治学研究科 客員教授
担当授業:メディア論、マスコミ産業論、
ネットワーク社会の実相



月並みだが、ジャーナリストには広い視野が求められる。理系・文系それぞれの領域から出発した学生諸君が相交わるこのコースは、それ自身が視野を広めるに格好の「空間」であることを認識し、ここで、われわれ教員も含めた「知のシンポジオン」(時には文字通りの「饗宴」)がくり広げられたらいいなあ、と考えている。

谷藤悦史 Etsushi TANIFUJI

早稲田大学政治経済学部 教授
日本マス・コミュニケーション学会総務担当理事
担当授業:マス・コミュニケーション理論



さまざまなことに好奇心を持つこと。最も得意とする分野を確立すること。知識を集約・体系化するメソッドを身につけ、新たな発見に結びつける努力を怠らないこと。

花田達朗 Tatsuro HANADA

早稲田大学教育・総合科学学術院 教授
担当授業:ジャーナリズム論

ジャーナリズムはひとつの「イズム」です。同時代の森羅万象の出来事が観察対象となりますが、その観察、記述、公表の仕方に「イズム」が働き、結果として社会的機能を担います。その「イズム」が何であるかを理解し、実践する者が「イスト」だと思えます。ジャーナリスト養成とはその意味での「イスト」の育成だと私は考えています。



山本武利 Taketoshi YAMAMOTO

早稲田大学大学院政治学研究科 教授
担当授業:広報論、マスコミ産業論

専門はマス・コミュニケーション、メディア史、情報史。新聞を中心とした活字メディア、ラジオ、テレビ、最近のニューメディアなどについて研究を行っています。また、雑誌『インテリジェンス』の出版や、プランク文庫をもとにした「日本占領期雑誌記事データベース」構築にも力を注いでいます。



岡本暁子 Kyoko OKAMOTO

早稲田大学政治経済学術院 准教授
担当授業:科学方法論

科学と社会をつなぐ、素晴らしい科学コミュニケーターになってください。そのためには何を学ばなければならないのか、何を研究しなければならないのか、自分自身でしっかり考え、充実した大学院生活にしてほしいと思います。



西村吉雄 Yoshio NISHIMURA

早稲田大学大学院政治学研究科 客員教授、
元 日経エレクトロニクス編集長
担当授業:科学技術政策、情報技術と情報産業、
エネルギーと環境、マスコミ産業論、
民間企業における研究開発

最新の科学技術の成果は、どのようにして一般生活者に伝えられているでしょうか。最大のチャンネルは、企業にいる技術者が発信する新製品や新サービス、私はそう信じています。企業で仕事をしている技術者を重視したい、そこに技術ジャーナリストだった私の経験を活かしたい、そう思っています。



伊藤 守 Mamoru ITO

早稲田大学教育・総合科学学術院 教授
担当授業:メディア文化論

専門は社会学で、個人的には「理論好き」。しかし、社会科学の「おもしろさ」はやはり「自分で調査して新しい知見」を作り上げること。ジャーナリストの仕事の一つの側面もそこにあると思う。自然科学と人文社会科学の垣根を越えた深い思索から、新しいコンセプトや言葉を編み出して、複雑な現実に切り込んでいってください。



若杉なおみ Naomi WAKASUGI

早稲田大学大学院政治学研究科 客員教授
元 国立国際医療センター研究所 疫学統計研究部長
担当授業:医療と社会、リスク管理、開発と健康ジェンダー

良き伝え手になるために大切だと私が考えているのは、知識の量ではなく、洞察力、思考力、人間の魅力です。それらはひとえに経験と苦勞が作るものだと思っています。あらゆる経験や苦勞を厭わず、考え、語り、書いてください。科学技術や芸術は人間の所産として矚目感嘆すべきものですが、どこに向かうのかわからない「あやうさ」も持っています。だからこそ科学を伝える仕事は面白いのではないのでしょうか。



教員紹介



青山聖子 Seiko AOYAMA
サイエンスライター
担当授業: 科学コミュニケーション実習2

科学は、とっつきにくい知識ではなく、生き生きとした人間の営みの所産です。それを自分なりの言葉で伝えるのは、やりがいのある仕事です。これまでの現場経験についてお話しすることが、みなさんのお役に立つことを願っています。

馬場錬成 Rensei BABA

科学ジャーナリスト
元 読売新聞社 論説委員
東京理科大学知的財産専門職大学院 教授
担当授業: 科学コミュニケーション実習3

時代認識を持ってほしい。いま進行しているIT産業革命は何がどのようにして始まり、どのような方向を向いているのか。10年後、20年後、50年後に日本と世界はどうなるのか。時代認識を持ってはじめて、将来予想ができる。そのような視点を持ってもらいたい。



森 達也 Tatsuya MORI
映画監督・作家
担当授業: メディア制作実習1

肩書きを聞かれるといちばん困る。テレビ・ディレクターで、映画も作り、最近はおっぱら執筆。これを統合する確かな語彙をどうしても思いつけない。しいて言葉にすればフリーター。まあそれもまたよし。大学にはいろんな教員がいる。フリーターだけど体験量だけは多い。仕事の関係でいろんな場所にも行っている。そんな男の講義を聴くのも一興。そんなつもりで履修してください。



堂前雅史 Masashi DAUMAE

和光大学現代人間学部身体環境共生学科 准教授
担当授業: 遺伝子技術概論

もともとの専門は、動物のホルモンと行動の関係を探ることでした。人間の行動を遺伝子で安易に説明する言説が世間に流布される状況に関心を持ち始めてから、GMO、BSE、クローン技術など科学と社会の関係について考えるようになりました。授業では、一緒に現代の科学と社会の関係を読み解いていきましょう。



瀬川至朗 Shiro SEGAWA

早稲田大学大学院政治学研究科 客員教授、
毎日新聞 編集局長兼科学環境部長
担当授業: 生命倫理、科学コミュニケーション実習4

ルノアールの代表作「舟遊びの昼食」には、男女14人が描かれています。帽子がエチケットだった時代であり、それぞれ職業に応じた帽子をかぶっています。ただ、1人だけ無帽の男性がいます。その人の職業はジャーナリストなのです。無帽は型にはまらない自由のシンボルと読み取れるようです。学生の皆さんには、この「無帽のジャーナリスト」を心に刻んでもらいたい。



御代川貴久夫 Kikuo MIYOKAWA

一橋大学社会学部 教授
担当授業: メディア史

単なる情報の伝達ではなく、情報の質を吟味できるジャーナリストを目指してください。



横山広美 Hiromi YOKOYAMA

東京大学大学院理学系研究科広報室 准教授、
サイエンスライター
担当授業: 科学コミュニケーション実習1

物理学、化学のノーベル賞のメダルの裏には、ネイチャーの女神のペールを持ち上げるサイエンスの女神の姿が刻まれています。人がいて初めて可能になるサイエンスの物語をつむぎだすと同時に、社会の中に根付くサイエンスの現実を、多角的、論理的に突き詰める力をみなさんとつけていきたいと思っています。



ディスカッション風景



教員紹介

石塚雅彦 Masahiko ISHIZUKA

ジャーナリスト、元 日本経済新聞 論説委員、
元 The Nikkei Weekly 編集長
担当授業:英語ライティング入門、
英語ライティング実習(ジャーナリズム)



「現代の知識人は、アマチュアたるべきである。アマチュアというのは、社会のなかで思考し憂慮する人間のことである。専門的かつ専門家むけの活動のただなかにおいても、知識人はモラルの問題を提起する資格を持つのだ」*。ジャーナリストにもよく当てはまるこの言葉を大事にしてみました。

*「知識人とは何か」
(エドワード・W・サイード、大橋洋一訳、平凡社、1995)

小山慶太 Keita KOYAMA

早稲田大学社会科学総合学院 教授
早稲田大学理事
担当授業:科学史



「真理は隠蔽されること以外、何も恐れるものはない」という精神を胸に、科学の報道に取り組んで下さい。

Mark JEWEL

早稲田大学政治経済学術院 教授
担当授業:英語ライティング(アカデミック)

Good journalism relies on clarity of expression. It is a simple principle that can be surprisingly difficult to put into practice. Yet when it this principle is observed, the result is not just the communication of information but also of ideas, and thus represents a genuine contribution to the store of human knowledge. It is a goal well worth aiming for.



Anthony P. NEWELL

早稲田大学社会科学総合学院 教授
元 NHKラジオ英語会話講師
担当授業:英語プレゼンテーション(アカデミック)

English is a key that will open many doors. I hope you will be able to grasp this opportunity to improve your English with both hands. Make it one of the keys that will provide an interesting and enjoyable future for you!



田中幹人 Mikihito TANAKA

早稲田大学大学院政治学研究所 客員講師
担当授業:自然科学概論2(生物学研究方法論)

生命科学は私たちヒトの生と死に深く関わっています。それだけに、科学技術ジャーナリズムの構造の中に生命科学が投げ込まれたときには、数多くの問題が浮かび上がってきます。手応えのあるこれらの問題に、みなさんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

山田 耕 Kou YAMADA

早稲田大学大学院政治学研究所 客員講師
担当授業:自然科学概論3(地球環境学入門)

専門は地球惑星科学です。地球惑星科学という学問は、地球や惑星の誕生からそこで起こる様々な自然現象を解明することを目的とし、物理、化学、生物の知識をフル活用する学際的な学問です。地球惑星科学の一端を紹介することで、自然科学に対するみなさんの力をサポートできればと考えています。

中村 理 Osamu NAKAMURA

早稲田大学大学院政治学研究所 客員講師
担当授業:自然科学概論1(物理学基礎)

天文学は長い時間をかけて人間の世界観を変えることに貢献してきました。自然科学が多かれ少なかれもつこの側面を文化として捉える。私はそんな視点を大切にしています。みなさんとは科学研究の方法論と成果を通じて、科学報道を考察していきたいと思っています。

那須川真澄 Masumi NASUKAWA

早稲田大学大学院政治学研究所 客員研究助手

認知科学に興味をもっています。実感できることだから、難しいし面白い。社会にうめこまれた科学や技術の問題も、実感できるからこそ難しいし面白いのだと思います。みなさんと一緒に、考えをぶつけあいながら勉強していきたいです。



吉戸智明 Tomoaki YOSHITO

早稲田大学大学院政治学研究所 客員研究助手、サイエンスライター

有機化学と天文学の研究をしてきました。分野が異なれば研究の仕方、自然に対するものの見方が違ってきます。さまざまな角度から自然を見つめ、自然科学とは何かを考える。科学とは何か。技術とは何か。ジャーナリズムとは何か。それを常に考えていきたいと思っています。